

海外紹介

世界の鍼灸コミュニケーション(V)

中国の一地方都市における鍼灸学会の概況

(社)全日本鍼灸学会理事(国際部委員)

青森東洋医学館館長 永山隆造

1. はじめに

鍼灸発祥の地中国ではあるが、広大な地域と人口の多さのため、鍼灸学会の組織がまだまだ整わない地域が存在するようである。

筆者は1986年より、中国の一地方都市、常州市に在る常州市中医医院を中心とした人々と鍼灸医学の交流を続けて来た。常州市中医医院は約400床、医師の70%は中医の医師である。

元常州市中医医院の院長であり、現在常州市第一人民医院(850床)の針灸科主任中醫師、蔣挺康氏が中心となり昨年11月「常州市鍼灸学会」(以下当学会と略記する)が設立された。そして筆者も理事の一人に推挙された。

今回の「世界の鍼灸コミュニケーション(V)」は日本と中国とのささやかなコミュニケーションではあるが当学会の概要と創立大会の模様などを紹介させて戴くことにした。

2. 常州市とその周辺地域

常州市は南京を省都とする江蘇省の一都市である。上海から南京へ向かう特快火車で約2時間、観光地として有名な無錫を経て常州市に到着する。この地域はいわゆる江南の地で古くから高度の文化の花を咲かせた「呉の国」の栄えた所である。近くの揚州市は鑿眞和尚修行の地であり鑿眞中医医院という立派な病院もある。

一帯は農業と工業を主産業としている。常州市は特に織物業も盛んである。日本では和服を呉服と称するのもこうした地縁からである。最近では工業の発展が著しく常州・無錫両市を中心とした江蘇省の工業生産は中国第4位を誇っており日本

との関連企業も非常に多い。

常州市の行政管理管轄区域は常州市に隣接する3市を含み人口は約330万人、地域も広大である。その人口も最近、都市集中が著しい。都市周辺の農地は開発のためか雑草地化している所も多い、かつての日本を思い出す風景である。

3. 当学会設立までの経過

統一された全中国の「中国鍼灸学会」の創立は、意外に新しく1985年11月のことである。それまでは「中医学会」の中の一分科会、鍼灸組として位置付けられていた。

「中医学会」は中国の伝統的中医学の全てを網羅するので組織も大きくその機構も複雑多岐である。

「中国鍼灸学会」が「中医学会」から分離独立したのは鍼灸医学とその関連医学の自主、主動、積極、敏速、専門性などを強化することが目的であった。

この点は日本にも「日本東洋医学会」と「全日本鍼灸学会」が共存していることと相似している様である。

「中国鍼灸学会」という国家的中央組織はやがて各省へ、各市へと同様な組織作りが始まって行く。常州市が属する江蘇省では、1987年中央から遅れること2年で「中国鍼灸学会」の下部組織「江蘇省鍼灸学会」が南京に事務所を置き設立された。そして1995年に江蘇省鍼灸学会の下部組織の一つとして当学会が創立されたのである。

中国は行政による統制が日本より厳格な国である。1995年5月、当学会の設立準備委員会が7名で発足するが、これまでには市衛生局、民政局な

どの審査と認可が必要である。そして学会規約、組織の確認、論文集の作製と確認などの手続を経て1995年11月28日、市民政局が官報に当学会の成立広告を出すという複雑な段取りが必要であった。

既存の学会から分派独立するのは大きな困難を伴うものであるが、当学会では関連医学の傷骨科の医師(捻挫, 脱臼, 骨折などの中医師), と推拿科の医師も吸収したので創立までには幾つかの波乱もあったようである。

しかし「正反合」を繰り返す中国の歴史の中での一過程としてその波乱は解消され互いに良き開花へと向かうであろう。

4. 当学会の概要

4. 1 目的

会員の技術, 学術の向上, 国内外の交流, 科学的組織的研究の推進などは全日本鍼灸学会の目的と大差はない。

しかし新しい針灸機器や材料の研究, 先進科学技術の針灸への積極的応用なども挙げられている。「組織的医療保険の推進」という項目もあり, 中国でも針灸医療の保険の問題を抱えていることが窺える。

4. 2 会員数と職種

会員数は現在219名である。

その職種の内訳は, 針灸科133名, 傷骨科57名, 推拿科23名, その他6名である。

人口330万人の地域としては会員数が少ないように思われる。その理由は現在の会員は病院(病院はすべて公立)に勤務している中医師だけであり, 私的個人企業の者は登録されていないためである。この点は日本とは大いに国情の異なるところである。事実, 広大な農村部町村などでの個人開業の人数の把握は困難だとのことである。

4. 3 会員の資格

常州市の行政管轄区内(常州市他3市)の針灸, 傷骨, 推拿科の中医師免許を有する中医師, および関連する研究所, 教職員, 工場技術者, 出版関係者などである。

現在は中医師は病院の勤務者に限られているが今後は免許証など適格者が証明されれば個人開業でも希望により入会させる方針である。

4. 4 組織

4. 4-1 役員

会長1, 副会長1, 秘書長(組織部長担当)1, 副秘書長3, 理事16名, うち9名の常務理事で構成されている。他に名誉会長3名, 技術顧問3名が置かれている。

4. 4-2 委員会

理事会には, 1)学術組, 2)組織組, 3)対外連絡組の3つの分担が別れている。

また学会の中には, 1)傷骨研究, 2)推拿研究の専門委員会が設けられてる。針灸学会の中に吸収した少数派への適切な対応がなされる。今後は地区別活動の検討も必要と考えている。

4. 5 当面の活動方針

下記の4項目に要約することが出来る。

4. 5-1

医療技術水準向上のための養成組織, 講習会, 学会活動の推進

4. 5-2

研究所, 関連医療器械工場などの新製品の開発, 応用, 臨床試験などの提携

4. 5-3

医療相談業務の推進

4. 5-4

国内外の諸団体からの理解, 関心, 協力, 支持を受けられるためへの努力

4. 5-2や4. 5-3などの項目に対する取り組みは日本の針灸学会としても大いに考えなければならないと思った。

4. 6 当学会の財源

学会の財源は次の3項によっている。

4. 6-1

国から市政府からの支弁はあるが全経費から見るとさほど多くはない。設立総会, 学術大会の予算の10%はこれによりまかなわれた。しかしこの額もこの種の催しに対する市政府の支出としては

例外的で、当学会に対する関心の高さの表れであると学会関係者は胸を張っていた。

4. 6-2 会費

会員は年会費を納めなければならない。しかし学会は準国家的団体であり、会員は国家公務員なので多額の会費を徴集することは不可能である。また当学会の年会費の中から「中国針灸学会」へ負担金も納めるので会費収入は会の経費の極く一部にしかない。

4. 6-3 その他の収入

今回の設立総会などの費用の90%は関連病院、関連機材工場、個人などからの賛助によるものであった。今後とも新機材の開発、応用、臨床試験などを関連団体と積極的に進め収入を確保する努力が必要である。

また個人や団体の理解や支持が得られるように努力するなどとなっている。

国情のちがいがもあるが、会費以外の収入に頼らなければ活動も充分になし得ない苦しさがあるようだ。

5. 当学会設立記念式典・第一回学術大会および論文集

5. 1 当学会設立記念式典

1995年11月28日、秋深い常州は暖かい晴天に恵まれた。会員の他、省政府、省針灸学会、市中華医学会、関連病院、科学技術委員会などの多数の来賓、関連産業界の人々、テレビ、新聞、関連医学誌の人々など多数が参加し、会場となった常州市第一人民医院の会議室には入れられない人も出るほどだった。

学会長・蔣挺康氏(常州市第一人民医院針灸科主任中醫師、元常州市中醫院院長)の挨拶、政府からの常州市針灸学会事務の1メートル四方ほどの大きく綺麗な表章の授与、約10名の来賓祝辞などがあって閉会した。

5. 2 第一回学術大会

式典に引き続く学術大会は特別講演1題、一般口演5題が行なわれた。

特別講演は不肖筆者が行なった。遠来の外国人理事に対する礼儀的配慮によるものかも知れな

い。一般口演は5題

- 1) 乳幼児下痢腹痛に対する針治療240例の検討
常州市第一人民医院針灸科 劉 佳
- 2) 針灸臨床に於ける経筋の意義の一考察
常州市鐘樓病院 張 維中
- 3) 脳卒中後下肢麻痺に対する隠白穴の刺針療法
常州市広化病院針灸科 楊 達人
- 4) 腰椎椎間板ヘルニアの手法(三搬法)治療
57症例の報告
常州市第一人民医院 徐 飛
- 5) 臥針子午搗臼法の施術要点について
溧陽市中医医院針灸科 紀 勝翔

5. 3 論文集

当学会の設立にあたり学術団体の証明として市政府に論文集を提出し審査をうけなければならなかった。応募論文72篇を審査し54篇を採用した。そして「常州实用医学誌、第11巻第11号、1995年11月発行に一括掲載し論文集とした。

6. おわりに

本稿は10年余の親友である常州市針灸学会会長蔣挺康氏から送られた資料をもとに書いたものである。氏は50歳も半ば、博学にして情熱家でもある。青森県東洋医学会の招きにより数年前に弘前市で講演され、青森地方会の会員も聴講したこともある。

国際コミュニケーションとなればスケールも大きいものが多いが、この様な小さな確実なコミュニケーションも有っても良いのではないかと思ひ紹介した次第である。

新生常州市針灸学会では国外の資料、情報の交換を希望している。

連絡先

中国江蘇省常州市局前街185
第一人民医院内
常州市針灸学会事務局
会長 蔣挺康